

# 会員選考諮問委は「5人」

## 学術会議組織見直し政府案

### 梶田会長「一方的」と批判

日本学術会議の組織見直しを巡り、政府は5日、会

- 詮問委メンバーは5人
- 詮問委のメンバーは科学の知見を持つ関係機関と協議して学術会議会長が任命
- 学術会議は会員候補者の選考の際にあらかじめ諮問委の意見を聞き、その意見を尊重しなければならない

員選考に關すやるたるに  
新設する予定の「選考諮問委員会（仮称）」の構成や規定などが案を学術会議幹部に説明した。メンバーは第三者の5人で科学研究の動向や産業などへの成果の活用、科学振興の政策に見識がある人物とし、「科学の知見を持つ関係機関」と協議をした上で学術会議の会長が任命するとし

た。

梶田隆章会長は、政府が学術会議法を改正しようと一方的に検討を進め、法案の条文を示していないと批判。17日からの学術会議総会で示すよう求め「当事者に出づく手手続きを進めれば、政府と学術界の決定的な結果になる」とけん制した。他の幹部らも「具体的な条

文案も示さないまま、不明なプロセスで（法改正を）強行しようとしている」と反発した。

政府案では、学術会議は会員選考の際にあらかじめ諮問委の意見を聞き、その意見を尊重しなければならない。「透明性を高めるため」と主張しており、「うした内容を盛り込んだ学術会議法改正案の今国会提出を自慢している。

学術会議幹部への説明で内閣府の担当者は「首相や政府が会員選考のプロセスを自慢している。」と強調し、諮問委は、菅義偉前首相による会員候補6人の任命拒否を機に浮上した。

会議側からは「監視のための法改正だ」「開かれた場での議論を求めている」など批判が相次いだ。

学術会議は科学者の組織で、会員選考は現在、現職の会員らが新会員の候補者を選んで首相に推薦している。優れた研究や業績があるかひつかは同じ科学者が判断することが適切との考え方に基づいており、学術会議側は諮問委が関与する政府案では独立性が損なわれると危機感を強めている。

政府が会員選考のプロセスに介入するような考えは「切ない」と強調し、諮問委は、菅義偉前首相による会員候補6人の任命拒否を機に浮上した。